

討論会形式の講演会原稿の募集について

— 申込締切日 11月15日(月) —

春秋の講演大会は会員各位が研究成果を発表する唯一の場として各種の講演発表が行なわれておりますが、講演大会をさらに一段と充実させるため編集委員会において検討の結果、来春の第71回講演大会から、現在行なっている討論会形式講演会の質的改善を図り、製鉄、製鋼、加工、性質の各部門ごとに討論会を行なうことになりました。

討論会は討論テーマを少なくとも講演論文募集時の6カ月前までに発表、一般講演の募集に合わせ会員から公募いたします。投稿された討論会論文原稿は編集委員会に諮り選定いたします。選にもれた論文は従来通り一般講演として講演プログラムに編入いたします。

来春の第71回講演大会における討論会はテーマ発表の時間的余裕がありまんでしたが、下記のテーマによつて開催いたしますので、別記講演論文募集案内をご覧のうえ奮つてご応募下さるようご案内いたします。なお、討論会原稿は講演論文寄稿規定によりご執筆下さい。

記

討論会テーマ

1. 焼結鉄の還元時（特に低温域）における挙動
2. 純酸素上吹転炉製鋼法における脱燐、脱硫の機構
3. 構造用鋼の特性におよぼす微量 Nb 添加の影響（特に強化機構）
4. 鋼中非金属介在物と機械的性質

討論会形式の講演会開催について

第70回講演大会におきましては製鉄会場において下記の討論会を開催することになりました。会員各位が活発な討論を交わし、内容の充実した討論会とするために討論時間も十分とつております。このため当日の第2会場（製鉄）の講演は取止め、製鉄関係会員が討論会に全員参加できるようプログラムを編成いたしました。また専門外の会員におかれましても多数お誘い合わせのうえご来聴下さるようご案内いたします。

記

1. 日 時 10月14日(木) 13:25~14:50
2. 会 場 第1会場（製鉄）教養第1教室
3. テーマ論文 焼結原料の分類について
富士製鉄(株)室蘭製鉄所研究所 萩原友郎君
講演番号15, 鉄と鋼第51年第10号(講演論文集I) 1750ページに掲載
4. 司 会 八幡製鉄(株)八幡製鉄所八幡製造所
技術部副長 嶋田正利君

特別講演会開催のお知らせ

— 10月14日(木) 15:00より —

第70回講演大会の開催を機会に、下記のごとく特別講演会を行なうことになりました。

今回は鉄鋼の大口需要先である造船ならびに建築からそれぞれの立場から見た鉄鋼材料の材質的要望とそれらの業界の将来の展望について、今日第一線において活躍されている方から直接お話を伺うことになりました。

会員各位におかれましても、興味ある問題であると同時に、裨益するところ大なるものがあると思しますので、お誘い合わせのうえ多数ご来聴下さるようご案内いたします。

記

- | | | | |
|--------|------------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 日 時 | 昭和40年10月14日(木) 15:00より | | |
| 2. 会 場 | 九州工業大学記念講堂 | | |
| 3. 講 演 | 15:00 | 開会挨拶ならびに講師紹介 | |
| | 15:10 | 造船業界の将来の展望と鉄鋼材料に対する要望 | 三菱重工業(株)長崎造船所 副所長 秋 友 素 身 君 |
| | 16:10 | 建築と高硬度 | 東京大学教授、日本建築学会副会長 坪 井 善 勝 君 |

共同研究会報告講演会開催のお知らせ

— 10月14日(木) 9:00より —

共同研究会第5回報告講演会を下記により開催いたしますので、会員各位お誘い合わせのうえ、多数ご来聴下さるようご案内申し上げます。

記

- | | | | |
|--------|---------------------------|---------------------|-----------------------|
| 1. 日 時 | 昭和40年10月14日(木) 9:00~12:00 | | |
| 2. 会 場 | 九州工業大学記念講堂 | | |
| 3. 講 演 | 9:00 | 開 会 挨 拶 | 共同研究会幹事長 山 岡 武 君 |
| | 9:05 | 最近の製鋼法の進歩について | 製鋼部会長 井 上 敏 郎 君 |
| | 10:00 | 鋼管製造技術上の2, 3の問題について | 鋼管部会長 原 田 芳 君 |
| | 11:00 | 線材圧延工場の設備と技術の進歩について | 条鋼部会線材分科会主査 浅 田 幸 吉 君 |

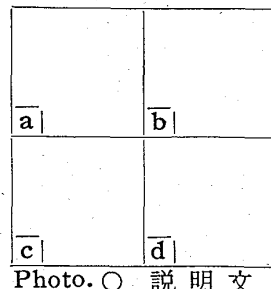
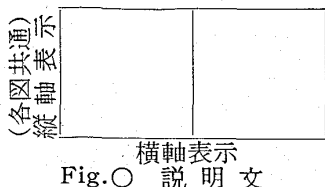
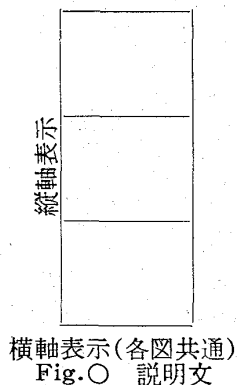
「鉄と鋼」講演論文寄稿規程

講演論文は本協会会員が本協会講演大会においてその研究結果を発表するために、その講演大会で発表する予定の研究結果を講演論文としてあらかじめ協会に提出し、講演論文集に掲載されるものである。講演論文の内容は著者の独創的研究結果で、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が正確に記述されているものとし、講演論文の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙 8 枚以上 16 枚まで、図・写真はあわせて 5 枚以内**として、規程の締切日までに提出しなければならない。

- (1) 講演論文は、本誌に載せる前にほかの学協会の講演会において発表されないものに限る。
- (2) 講演論文は、年 2 回（春、秋）開催される本協会講演大会において発表する予定の研究結果をまとめ、本協会によりそのつど定める期限内に協会へ提出されるものとする。
- (3) 講演論文の内容は著者の独創的寄与を主体とするもので、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が明確に記述されているものとする。内容が豊富な場合には、第 1 報、第 2 報の分割形式（例参照）としてもよい。
 - (例) 焼入性におよぼす酸素の影響について
(鋼の焼入性に関する研究—Ⅱ)
- (4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる。原稿の表紙には所定事項を確実に記入し、原稿は左横書きとする。
- (5) 平易な口語体を用い、漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い、かなは新かなづかい（第 4 表の例を参照）によること。
- (6) 講演論文には必ず英文題目、100 語以内の英文要旨、英文要旨の和訳文を添付する。英文要旨は編集委員会で審査の結果、Tetsu-to-Hagané Overseas に掲載されることがあるので、それによつて主要成果がわかる程度に書かれていること。
- (7) 講演論文の原稿の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙 8 枚以上 16 枚までの範囲内に限定し、図および写真はあわせて 5 枚以内**とする。図および写真の占める面積については、下記の (15) 項を参考にして正しく算定し、原稿枚数が規定外にならないようにする。また同一の事項を図・表両方で表わさないこと。
- (8) 文章には、最も読みやすくするために句点（、）および終止点（。）を適当に付ける。いずれの場合にも原稿用紙の 1 こまをあてる。
- (9) 数量を表わす場合にはアラビア数字を用い、単位は原則として CGS 単位系を用いるが、電磁気量の場合には MKS 単位系を用いてよい。単位の略記号は第 1 表の例に従う。周知でない単位には略記号を用いないこと。
- (10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはかたかな書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名はなるべく化学記号によつて示すが、周知の合金名、化合物名は化学記号表示を行なう必要はない。（第 2 表の例参照）
- (11) 英字、数字、ギリシャ文字はていねいに記し、混同しやすい文字はとくに注意して書くこと。英字の大文字、小文字、ギリシャ文字で混同しやすい文字はとくに赤字でⒶ, ㉑, ㉒などと傍記する。ゴチック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ——、~~~~を付けること。添字の上ツキ、下ツキは正確に記すこと。
- (12) 数式は印刷に便利のように注意し、 b/a , $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべし少ない行数で表わすように書く。
- (13) 表はなるべく本文中に挿入すること。1 つの表の大きさは、会誌の 1 ページの面積を考慮し、横の刷り上がり寸法 7cm または 14.5cm、縦の刷り上がり寸法 18cm 以内におさまるようにする。
- (14) 図・写真・表の説明は英文とする。写真には必ず倍率を記入する。
- (15) 図および写真は、横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の 2～3 倍大とし、下記の縮尺記号を記入しておくこと。
 - (イ) 横 7cm (縮尺 A). (ロ) 横 14.5cm (縮尺 B)

刷り上がり後の縦の寸法は 18cm 以内とする。

図および写真の横の縮尺が上記のように定まれば、縦の刷り上がり寸法も定められるから、図および写真の占める面積を算出し、下記の規準に従つてその面積に相当する字数を求め、原稿の長さが本規程 (7) の



範囲外にならないようにする。

縮尺Aの場合、刷り上がり面積 42 cm² は 400 字、すなわち所定原稿用紙 1 枚に相当する。

縮尺Bの場合、刷り上がり面積 87 cm² は 800 字、すなわち所定原稿用紙 2 枚に相当する。

図および写真を並列して 1 個に取り扱うことができるのは、下記の数例の場合に限る。

図は白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて書き、図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書くこと。

- Ⓔ(16) 図および写真は散逸を防ぐため、原稿用紙または適当な大きさの台紙に貼付し、右下隅に著者名を記入すること。図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する。原稿本文中に図・写真挿入箇所を空白にあげないこと。
- Ⓔ(17) 参考文献は、通し番号を付け、本文の最後に一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号(かっこ付き)を上つき小数字で示す。
 参考文献は著者名：雑誌名，巻数(発行年度)，号数，ページ数の順に記載すること。
 (例) R. K. GLASS: Blast Furn. & Steel Plant, 46 (1958)2, p. 198~204
 雑誌名は第3表の略記例に従う。単行書は、著者名：書名，(発行年度)，ページ数，[出版社名]の順に記載する。
 第2報以後の講演論文には必ずその前報を参考文献として示すこと。
- Ⓔ(18) 寄稿された講演論文の受理年月日は、本協会で定めた講演論文原稿締切日とする。
- Ⓔ(19) 寄稿講演論文は編集委員会において審査される。下記の各項のいずれかに該当するものは受理されない。
 (a) 学術および技術への寄与がほとんど無いと考えられる場合
 (b) 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合
 (c) その講演論文に直接関連するほかの重要な研究論文を参考文献として示していない場合
 (d) 寄稿規程の(6)，(7)，(15)，に確実に従っていない場合およびそのほかの規定に著しく違反する場合
 (e) 内容に顕著な誤りが含まれている場合
 また編集委員会において、内容の一部を修正，削除することがある。
- Ⓔ(20) 支部講演会における発表は、講演論文の形では受理しないので、早期の誌上発表を希望するときは研究速報の形式で原稿を提出すること。
- Ⓔ(21) 講演論文の原稿は返却しない。
- Ⓔ(22) 講演論文の別刷は部数を20部に限定，希望者に有料で作成する。

第1表 単位およびその記号の例

量	単位の名称	単位記号	量	単位の名称	単位記号	
角 度	ラジアン	rad	工 率 動 力	キロワット	kW	
	度°		ワット	W	
	分'		エルグ毎秒	erg/sec	
	秒"	英馬力	IP		
長 さ	キロメートル	km	温 度	セツ氏温度°C	
	メートル	m		絶対温度°K	
	センチメートル	cm	熱 量	ジュール	Joule, (J)	
	ミリメートル	mm		キロカロリー	kcal	
	ミクロン	μ	カロリー	cal		
	オングストローム	\AA	熱伝導度	カロリー毎センチメートル度	cal/(sec. cm. deg)	
キロX線単位	kX					
面 積	平方メートル	m ²	比 熱	ジュール毎キログラム度	Joule/ (kg·deg)	
	平方センチメートル	cm ²		カロリー毎グラム度	cal/g·deg	
	平方ミリメートル	mm ²	熱 容 量	ジュール毎度	Joule/deg	
体 積	立方メートル	m ³		電 流	アンペア	A
	立方センチメートル	cm ³ , cc	ミリアンペア		mA	
	立方ミリメートル	mm ³	電 流 密 度	アンペア毎平方メートル	A/m ²	
	キリットル	l		電界の強さ	ボルト毎メートル	V/m
	リットル	l	電 起 電 圧 力		キロボルト	kV
	ミリリットル	ml		ボルト	V	
時 間	年	year(年)	ミリボルト	mV		
	日	day(日)	電 気 容 量	ファラッド	Farad, (F)	
	時	hr		電 気 抵 抗	オーム	Ω
毎分回転数	回毎分	rpm	マイクロオーム		$\mu\Omega$	
	速 度	キロメートル毎時	km/hr	コンダクタンス	モ	\mathcal{U}
		センチメートル毎秒	cm/sec		インダクタンス	ヘンリー
メートル毎分		m/min	電 力	キロワット		kW
加 速 度	センチメートル毎秒毎秒	cm/sec ²		ワット	W	
	周 波 数 振 動 数	サイクル毎秒	c/sec	磁界の強さ	エルステット	Oe
		キロサイクル毎秒	kc/sec		アンペア毎メートル	A/m
メガサイクル毎秒		MC/sec	磁 束	ウェーバ	Wb	
質 量	トン	t		マックスウェル	Maxwell, (M)	
	キログラム	kg	磁 束 密 度	ウェーバ毎平方メートル	Wb/m ²	
	グラム	g		ガウス	G	
密 度	ミリグラム	mg	キロガウス	kG		
	力	グラム毎立方センチメートル	g/cm ³	組 成	容積パーセント	vol%
		ニュートン	N		重量パーセント	wt%, %
ダイン				dyn	原子パーセント	at%
力	重量キログラム	kgw	モル濃度	モル毎リットル	mol/l	
	キログラム毎平方ミリメートル	kg/mm ²		仕事	ジュール	Joule
			グラム毎平方センチメートル			
力	バー	bar	重量キログラム・メートル	kgm		
	ミリバー	mbar	キロワット時	kWh		
圧 力	気圧	atm				
	水銀柱ミリメートル	mmHg				
エネルギー	ジュール	Joule				
	エルグ	erg				
仕事	重量キログラム・メートル	kgm				
	キロワット時	kWh				

第2表 論文中の術語の書き方例

1) 表題に用いる術語は不明瞭な省略語は用いない。

たとえば“……………脱酸, 脱硫作用……………”とし, ……………脱O, 脱S…………”は不可

2) 本文にて最初に述べる術語は, 内容の十分理解できる親切な表現を用いること。

たとえば“……………生じた Hercynite($\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$)は……………”

“平衡定数 K' , Gibbs の自由エネルギー G は……………”

“マグネタイト (Fe_3O_4) を N_2 を含む CO で還元した結果, Fe_3O_4 は……………”

“シリカ・カプセルをかぶせた低炭素鋼板を管状炉内で加熱したが, ほとんど脱炭しなかった。”

3) 本文にて繰返し用いる場合は化学記号, その他のすでに認められた省略記述でよい。

たとえば溶鋼中の成分 (無限稀積液標準の場合) は C , O で表わし

“ ” (純液規準の場合) は $[\text{Ni}]$, $[\text{Fe}]$ などで表わす

また, たとえば, 文中に「オーステナイト」の語が多数出てくるときは, その最初のところで「オーステナイト(γ)」として以下「 γ 」を用いてよい。

4) 学術技術の進歩とともに日本語訳では十分表現できない言葉が次第に増してきているから, 下記の例のようにカナ書きとして術語を表わす。しかし意味のピッタリした簡明な日本語訳のある場合は慣用に従つてなるべく日本語を書くことを原則とする。次に例を示す。

i) カナ書きが妥当と思われるもの

ガス, エネルギー, プロパン

リムド鋼, キルド鋼

ポテンシャル

窒化アルミニウム AlN

ニオブ, タンタル

グラファイト

(エレクトロンプロブ) X線マイクロアナライザー

ベアリング, または軸受

オーステナイト, フェライト, ベイナイト, インゴット,

ビレット, フープ, パス, スケール, ステンレス

鋼, クリープ, プレス, ロール, ブルーム, ブローホール,

キャンパー, カーボメーター, セメントタイト, 板

のクラウン, フェロアロイ, フランジ, ガイド, ジョ

ミニ試験, マクロ腐食, マンドレル, マルテンパー,

マルテンサイト, ノッチ, オーバル, ポリゴナイズ,

スクラップ, セミキルド鋼, シャー, スラブ, スラッグ,

ストリップ, タンデムミル, ビッカース硬さ(硬度計)

備 考

日本語になりきつている

慣用の期間が長く, ピッタリしたよい訳がない

ピッタリした日本語訳がなく慣用している

窒化アルミの形は用いない

または Nb, Ta (通常 Cb は用いない)

または黒鉛

略記としては EPMA, XMA などが慣用

“メタル”は不可 (混同しやすい)

鉄冶金慣用語の例

ii) 原語を一度書き添えることが妥当だと思われるもの

フォーミング(foaming)

フォーミングは forming もあり混同することもある

パージング(purging)

} 日本語に十分慣用されていない

フラッターリング(fluttering)

スカルピング(scalping)

iii) 省略的記述の例

78Ni-22Fe 合金

Ni-Cr-Mo 肌焼鋼

Ferro-Si-Zr

5% nital, picral など

JIS-SUS 31

U.S. Pat. 1, 932, 566

Hb 100, Hrc 50

HNO_3 (5%)

18-8ステンレス鋼の場合は慣用によつて Cr, Ni 省略

フェロアロイの場合を表わす

化学記号表示の必要はない

AISI, DIN, En その他同様

米国の慣例による

ブリネル, ロックウェルC硬度値

分析の場合など“硝酸水溶液”に慣用

第3表 文献略記例

雜誌名	略記	雜誌名	略記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst.(U.K).
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
- Blast Furnace, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
- The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing Journal	Metal Finishing J.
- National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute,	Amer. Iron & Steel Inst.	Metal Treating	Metal Treating
- Annual Statistical Report	- , Ann. Stat. Rep.	Metalloberfläche	Metalloberfläche
- Contribution to the Metallurgy of Steel	- , Cont. Met. Steel	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
American Society for Testing Materials,	Amer. Soc. Test. Mat.,	Métallurgie et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
- Preprint	- , Preprint	Modern Castings	Mod. Castings
- Special Technical Publication	- , Spe. Tech. Pub.	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
Archiv für das Eisenhüttenwesen	Arch. Eisenhüttenw.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Stahl und Eisen	Stahl u. Eisen
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Stal	Stal
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Steel	Steel
Corrosion	Corrosion	Steel Processing	Steel Process.
Foundry	Foundry	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met. & Pet. Eng.
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron Age	Iron Age	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel	Iron & Steel	United States Bureau of Mines, - Bulletin	U. S. Bur. Mines, - , Bull.
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	- Information Circular	- , Inf. Circ.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	- Mineral Industry Survey	- , Miner. Ind. Survey
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	- Minerals Yearbook	- , Miner. Yearbook
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	- Report of Investigations	- , Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

第4表 かながきの例

可	不可	可	不可	可	不可	可	不可
明らか	明か	かりに	仮に	それぞれ	夫々	ほかに	外に, 他に
あたかも	恰も	きわめて	極めて	ただ	唯	ほとんど	殆ど
扱う	扱かう	……くらい	……位	ただし	但し	ほど	程
あらかじめ	予め	ここ	此所, 茲	たとえば	例えば	ほぼ	略々
表わす	表す	……こと	……事	ため	為	ますます	益々
ある	在る, 有る	異なる	異なる	だいたい	大体	また	又, 亦
あるいは	或は	ことに	殊に	ちなみに	因みに	まだ	未だ
(と)いう	(と)言う	これ, この	之, 此の	ちようど	丁度	まちがい	間違い
いかなる	如何なる	ごとく	如く	ついて	就て, 付いて	まで	迄
いづれ	何れ, いづれ	ごとに	毎に	ついに	遂に	みなす	見做す
いつそう	一層	さしつかえ	差支へ	(の)とおり	(の)通り	(して)みる	(して)見る
(して)	(して)	ささえる	支える	(する)とき	(する)時	向かう	向う
いただく	頂く, 載く	しかし	併し, 然し	……ところ	……所, 処	明りよう	明瞭
いつたん	一旦	しかも	而も, 然も	伴う	伴なう	もし	若し
(して)いる	(して)居る	したがって	従て……	ともに	共に	もちろん	勿論
いわゆる	所謂	……に従う	…にしたがう	ないし	乃至	…(し)やすい	…(し)易い
おいて	於て	しだいに	次第に	なお	尚, 猶	やはり	矢張り
おそい	遅い	しばしば	屢々	なぜ	何故	やや	稍
遅れる	おくれる	……しまう	…了う, 終う	など, ら	等	ゆえに	故に
おのおの	各々	十分に	充分に	ならびに	並びに	ようす	様子
おもな	主な	少ない	少い	なるべく	成可く	ように	様に
および	及び	すなわち	即ち, 則ち	はなはだ	甚だ	ようやく	漸く
かえつて	却て	すべて	総て, 全て, 凡て	ページ	頁	わかる	判る, 分る, 解る
かかわらず	拘ず	ずつ	宛, づゝ	ほう(の)	方(の)	わたつて	亘つて
かつ	且	その	其の				
かなり	可成						

第16回塑性加工連合講演会開催案内

—— 開催11月19日、20日・前刷集申込締切10月30日 ——

共 催 高分子学会・精機学会・日本機械学会・日本金属学会
日本材料学会・日本塑性加工学会・日本鉄鋼協会

第16回塑性加工連合講演会が下記の通り開催されます。今回は講演数が70件にのぼり、初めての試みとして3～4
題目ごとに討論が行なわれます。多数参加されますようご案内いたします。

なお詳細は共催学協会にお問合せ下さい。

記

- 日 時** 昭和40年11月19日(金)、20日(土)、a.m. 9:20～
- 会 場** 発明会館ホールおよび会議室(東京都港区芝西久保明船町17)
- 前刷集
申込締切日** 昭和40年10月30日(土) a.m. 12:00 までに着信のこと。
前刷集は講演会前にお手元に送付いたします。
締切日以後着信のものは講演当日配布、ご欠席の場合は講演会終了後発送いたします。
- 前刷集代金** 1000円
- 前刷集
申込方法** 葉書大の用紙に、別記書式にて記入のうえ代金を添えてお申し込み下さい。
通信先はできるだけ自宅をご記入下さい。
- 討論受付** 上記の通りに今回初めての試みとして3～4題目ごとに討論をまとめ行ないます。
討論希望者は討論の要旨などを前もって講演者司会者に知らせるため、前刷集ご熟読のうえ、討
論、質問の要旨を11月13日(土)までに日本機械学会宛お送り下さい。
なお討論会当日討論を提出されてもさしつかえありませんができるだけご一報下さい。
- 記入用紙** 複写可能な用紙
- 記入項目** 第16回塑性加工連合講演会と題記
(1)講演番号、講演者名、(2)討論
提出者の氏名、勤務先、通信先。
(3)講演会当日の出欠、(4)討論、
質問の要旨
- 申 込 先** 東京都港区赤坂一ツ木町89
日本規格協会ビル内
日本機械学会 電話(582) 6911 代

前刷集申込書式

第16回塑性加工連合講演会前刷集申込		
講演前刷集(1冊 1000円)		
冊	金額	円
講演会	出席・欠席	記入願います
通信先		
氏 名		
ふりがな		